

# 平成28年度 可児市子どもの読書アンケート調査報告

## I. 調査の概要

### 1. 調査目的

可児市子どもの読書活動推進計画で掲げた施策の進捗状況の参考指標とするため、家庭における子どもの読書実態について調査を行いました。

### 2. 調査対象

可児市内小・中学校から規模・地域性を考慮して、下記のとおり抽出した学校及び学年・学級の児童及び生徒を対象としました。

○小学校については4校

春里・今渡南・今渡北・広見小の3年生及び6年生各2クラス

○中学校については3校

中部・広陵・東可児中の2年生各2クラス

	小3	小6	小学校計	中2
調査実施人数	261	279	540	220
市内生徒数	914	953	1867	933
調査実施率	28.6%	29.3%	28.9%	23.6%

### 3. 調査

対象期間 平成28年11月1日～平成28年11月30日まで

実施日 平成28年12月1日(火)

### 4. 設問事項

○11月中に家庭で行った読書について

①読書日数

②読書時間

③読書冊数

④読んだ本はどこで借りたか

⑤読んだ本の分類

⑥読まなかった理由

## II. 調査結果の概要

### 1. 読書日数について

設 問：11 月中に家で本を読みましたか

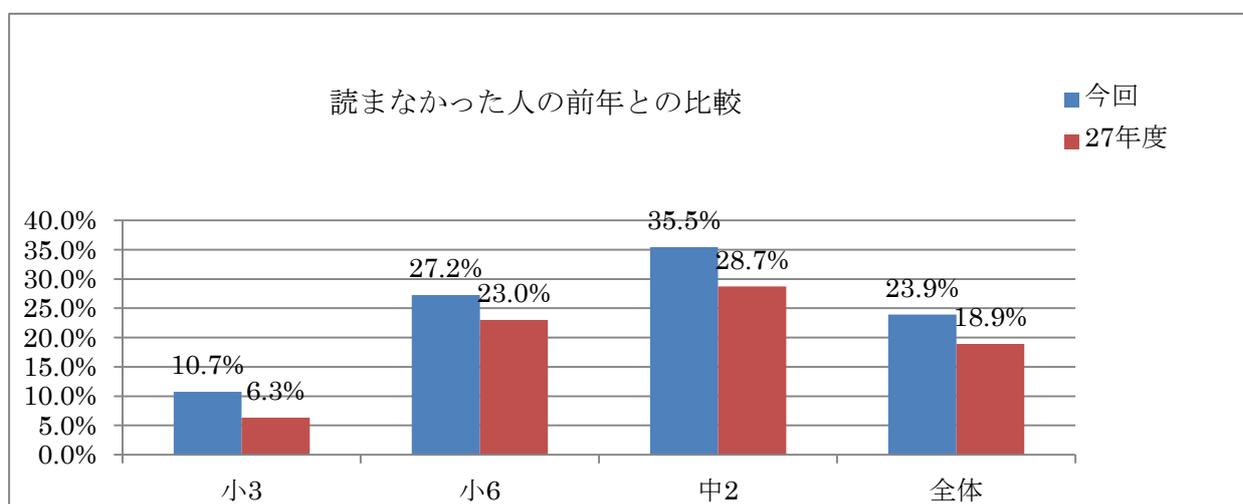
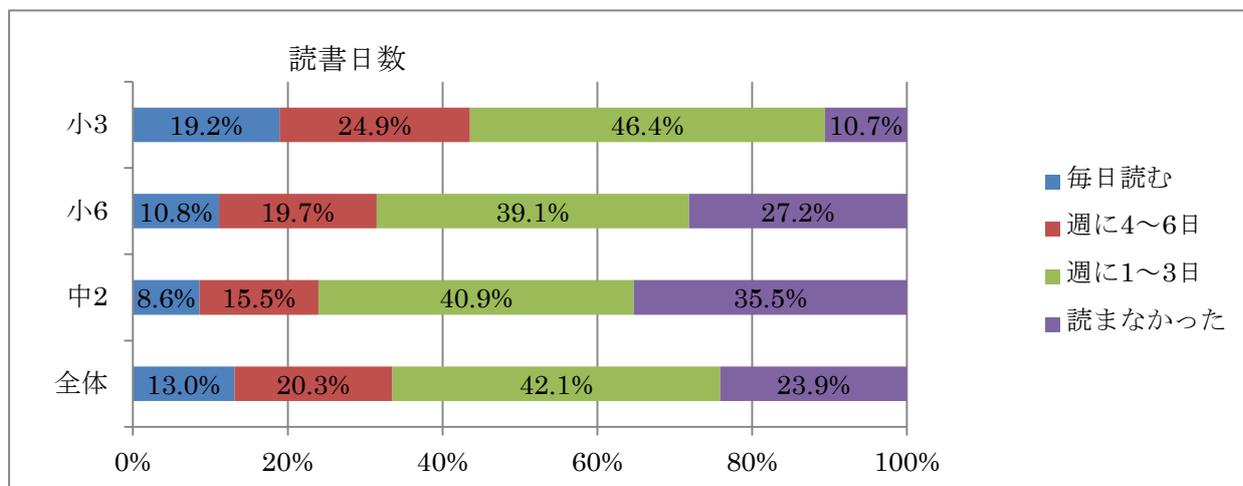
回 答：①毎日読んだ ②週に4～6日読んだ ③週に1～3日読んだ ④読まなかった

小学3年生の1ヶ月間の読書した人は89.3%で、その内訳は多い順に、週に1～3日が46.4%、週に4～6日が24.9%、毎日読んだが19.2%でした。読まなかった子は10.7%で昨年と比較すると4.4ポイント低下しました。

小学6年生は、72.8%の児童が読書しており、その内訳は多い順に、週に1～3日が39.1%、週に4～6日が19.7%、毎日読んだが10.8%でした。読まなかった子は27.2%で昨年と比較すると4.2ポイント低下しました。

中学2年生は、64.5%の生徒が読書しており、その内訳は多い順に、週に1～3日が40.9%、週に4～6日が15.5%、毎日読んだが8.6%でした。読まなかった子は35.5%で昨年と比較すると6.8ポイント低下しました。

家で読書をしなかった割合は、学年が高くなるにつれ多くなっており、前年と比較すると全体で5ポイント低下しています。



## 2. 読書時間について

設 問：1日平均の読書時間について

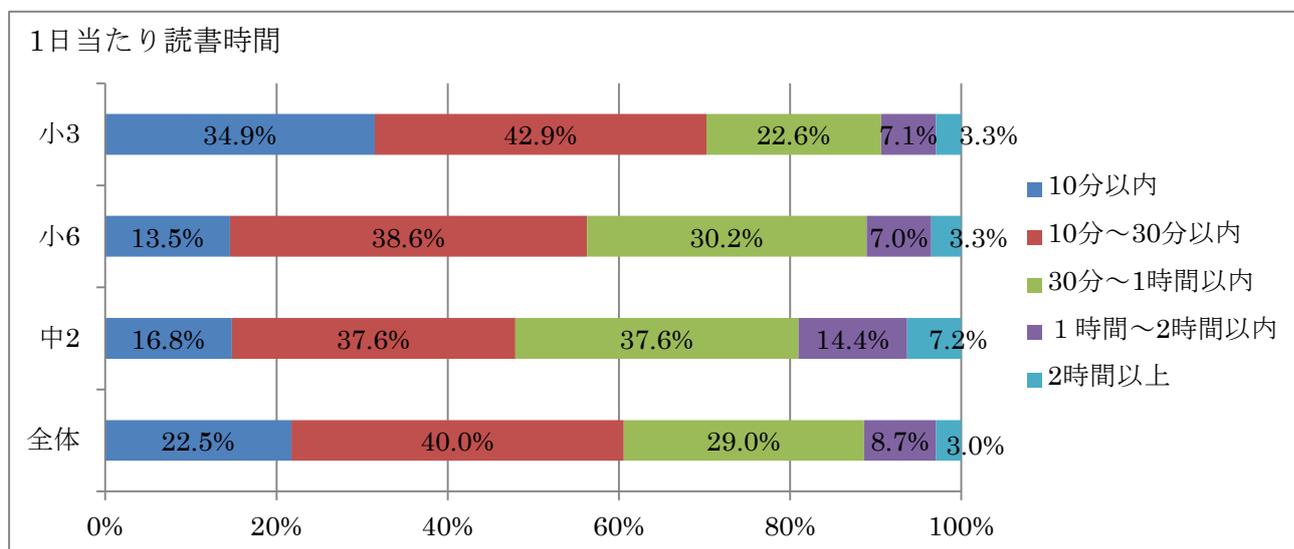
回 答：①10分くらいまで ②10分～30分くらいまで ③30分～1時間くらいまで  
④1時間から2時間くらいまで ⑤2時間以上

小学3年生は、10分くらいまでが34.9%、30分以内が42.9%、1時間以内が22.6%、2時間以内が7.1%、2時間以上が3.3%で、30分以内が最も多い結果となりました。

小学6年生は、10分くらいまでが13.5%、30分以内が38.6%、1時間以内が30.2%、2時間以内が7.0%、2時間以上が3.3%で、30分以内が最も多い結果となりました。

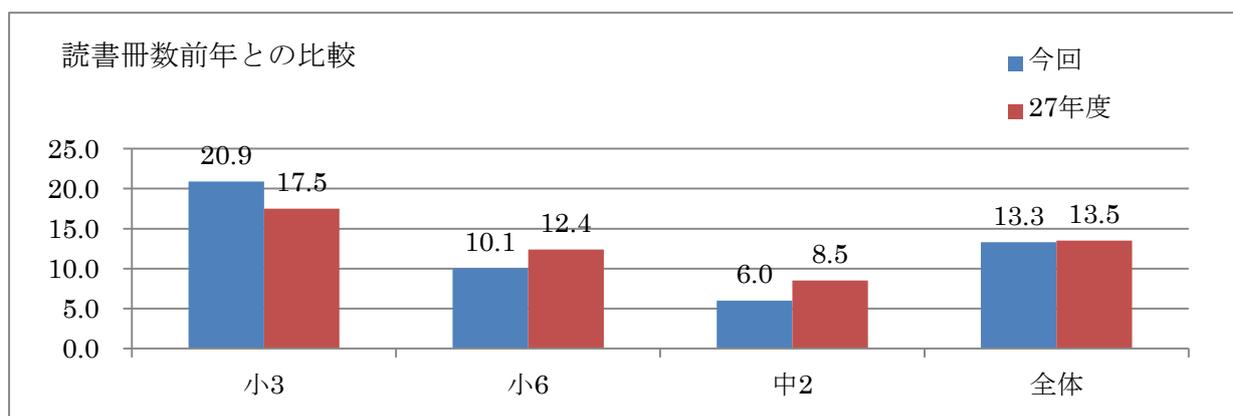
中学2年生は、10分くらいまでが16.8%、30分以内が37.6%、1時間以内が37.6%、2時間以内が14.4%、2時間以上が7.2%で、30分以内と1時間以内が多い結果となりました。

学年が高くなるにつれ、読書時間は長くなっているのがわかります。



## 3. 読書冊数について

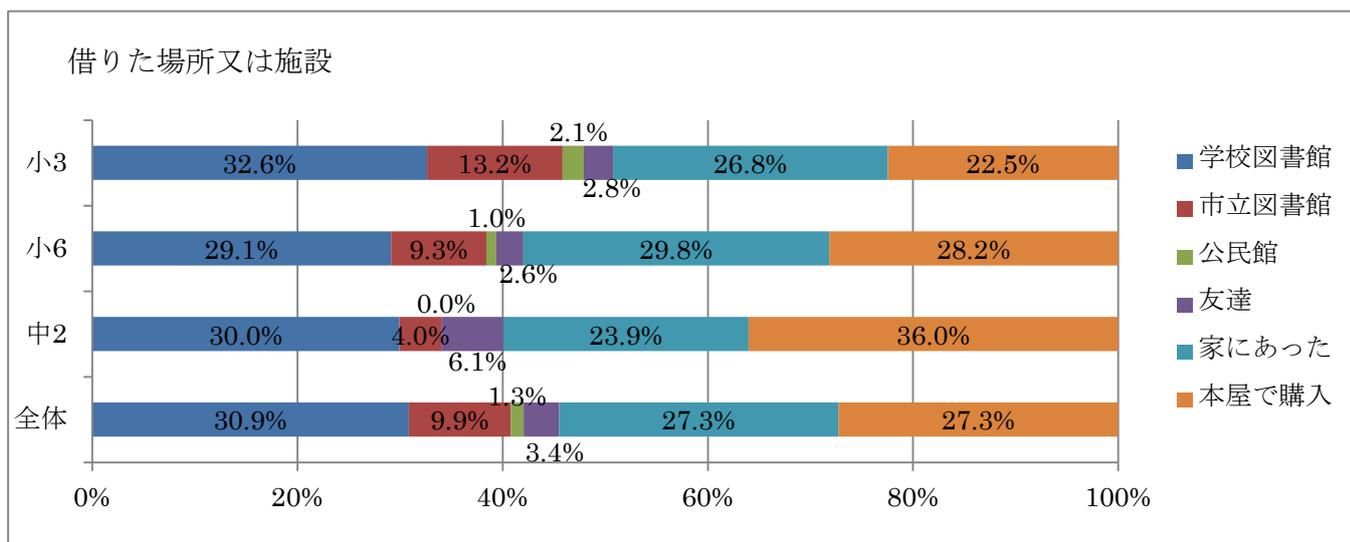
読書した生徒の読書冊数は、小3が20.9冊、小6が10.1冊、中2が6.0冊となりました。前年と比べて、小6と中2は冊数が減っています。



#### 4. どこで借りたいか

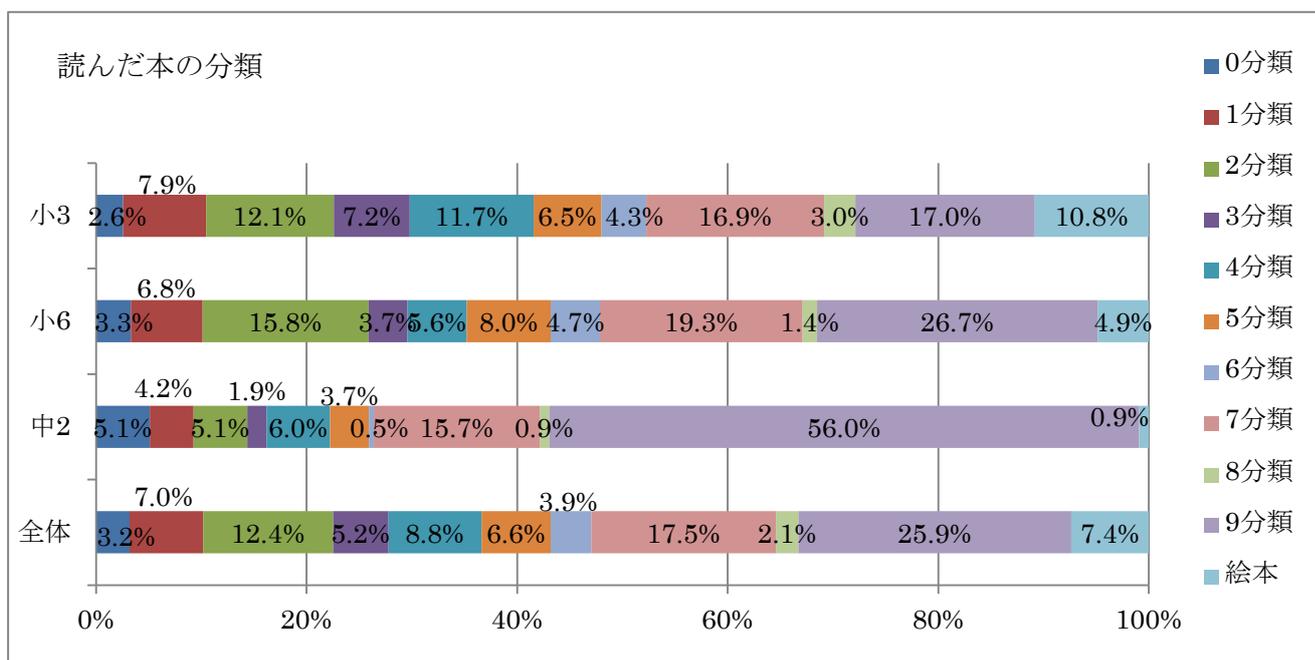
「本をどこで借りたいか」の設問では、小3は学校図書館、家、本屋の順となり、小6は家、学校図書館、本屋の順となっています。中2では、本屋、学校図書館、家の順となっており、昨年と比べ学校図書館が9.6ポイント増えています。

小学生は学校図書館の利用が多く、中2では書店で購入するとなっています。



#### 5. 読書した本の種類について

「家でどんな分類の本を読んだか」の設問では、各学年とも9分類（文学）が最も多く、次に7分類（芸術・スポーツ）、小6では2分類（歴史・地理）を多く読んでいます。



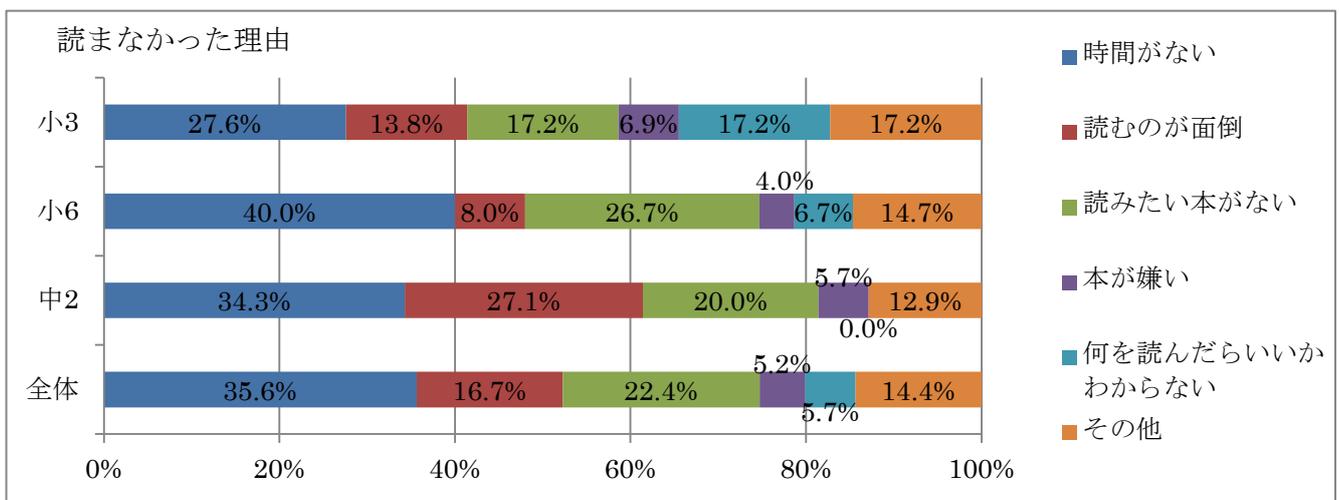
## 6. 読まなかった理由

家であまり本を読まない子どもに理由を聞いた設問では、「時間がない」と答えた割合が最も多くなっています。また、中2の27.1%が「読むのが面倒」と答えており、小学生のうちに読書習慣を身に着け、読書の楽しさを体験することが大切だと言えます。

また、「家に本がない」と回答している子どもが複数人おり、家庭が経済的に困窮している状況だと、子ども自身が本を読める環境にはないことが推測されます。対照的に、「スマホを触っていた」「ネット小説」と答える子どもがおり、メディアの変化に対応している状況が伺えます。

### 読まなかったその他の理由

- ・マンガを読む
- ・図書館に行かない
- ・家に本がない
- ・本のことを忘れていた
- ・ネット小説
- ・ゲームをしていたいから
- ・スマホを触っていた
- ・漢字を読めないから



担当：可児市立図書館 若尾・長谷川  
 〒509-0214 可児市広見 570-5  
 TEL0574-62-5120